

重点課題 1

アンメットメディカルニーズへの対応

2030年
目標

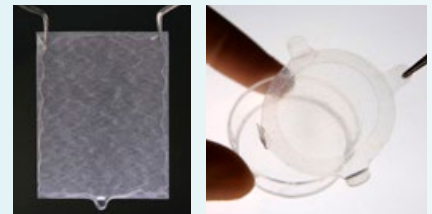
再生医療、細胞治療を含めた新たな治療法の開発と普及

富士フイルムグループは、有効な治療法が確立されていない医療上のニーズ（アンメットメディカルニーズ）に対して、新しい治療法の実現と普及に取り組んでいます。写真フィルムの開発・製造で培った高機能素材合成技術や高度なナノ分散技術、解析技術、生産エンジニアリング技術等とのシナジーが期待できる、優れた技術をもつパートナーと積極的に協働することで、再生医療、細胞治療など新たなソリューション開発と、こうした先端医療が広く普及するためのアクセス向上の両面での貢献を目指します。

2018年度
の活動

【目標】新たな治療ソリューションの開発（①再生医療、②感染症への対応、③中枢神経系疾患への対応）

- ① 「自家培養表皮ジェイス®」が遺伝性の皮膚難病である表皮水疱症を治療する再生医療製品として保険適用
- ① 自家培養角膜上皮（開発名：EYE-01M）の製造販売承認を眼科領域の再生医療等製品において国内で初めて申請
- ① 「自家培養表皮の開発」で平成31年度科学技術分野の文部科学大臣表彰「科学技術賞」を受賞
- ② 肺炎などの呼吸器感染症を主な適応症として中国でキノロン系経口合成抗菌薬が輸入医薬品承認を取得
- ② 中耳炎や副鼻腔炎など耳鼻咽喉科感染症の治療薬として日本で新規抗菌薬の製造販売承認申請
- ② 国内初となる口腔粘膜付着型の抗真菌剤口腔咽頭カンジダ症治療剤「オラビ®錠口腔用50mg」新発売
- ③ 脳卒中後のリハビリテーション効果を促進する新薬候補化合物の臨床第Ⅱ相試験を開始



自家培養表皮ジェイス（左）と自家培養角膜上皮（EYE-01M）（右）

【目標】新たな治療ソリューションへのアクセス向上（④開発・生産受託での貢献、⑤先端医療を支える製品の開発・普及での貢献）

- ④ 米バイオ医薬品※大手バイオジェン社の製造子会社を買収
- ④ 抗体医薬品の開発期間を大幅短縮、受託業界で最短となる34週間を実現
- ④ 培養から精製までの高性能・高効率な全工程連続生産システムを開発
- ⑤ アルツハイマー型認知症などの神経疾患領域において、ヒト生体に近い環境で新薬の評価に貢献する創薬支援用iPS細胞由来分化細胞「iCell® Microglia（アイセル ミクログリア）」発売
- ⑤ 新たに設立した「富士フイルム和光バイオソリューションズ」で創薬支援業務や検査業務の受託サービス開始

※バイオ医薬品：化学合成でつくられる従来の低分子医薬品では実現できない作用を持つ、たんぱく質などの生体分子を活用した医薬品で、インスリン、ワクチン、抗体医薬品などを含む。抗体医薬品とは、生体内で病原菌やがん細胞などの異常な細胞を認識して生体を保護する免疫システムの主役である抗体を主成分とした医薬品

今後の
活動&目標

- 当社グループによる再生医療製品の上市・適応拡大及び同製品の製造受託拡大への取り組み
- 当社新薬パイプラインの開発の加速
- バイオ医薬品の製造受託拡大
- 新たな先端バイオ医療（遺伝子治療など）を支える「培地」や生産技術などの開発と普及

“根治治療”を可能にする再生医療製品の開発

有効な治療法が見つからない疾病治療の解決策として期待されているのが、「再生医療」です。富士フイルムグループは、再生医療のリーディングカンパニーを目指して、積極的な研究開発やM&Aを実施してきました。これに

より、再生医療に必要な3要素（細胞、足場材、培地/サイトカイン）をすべて保有する世界で唯一の企業となり、事業拡大を積極的に進めています。

グループ会社であるジャパン・ティッシュ・エンジニアリング（J-TEC）は、患者さんから採取された細胞を自社で培